

平成29年第4回燕市議会定例会
一般質問日程表

質 問 日		質 問 者		質 問 方 式	
				一括質問	一問一答
12月12日(火)	午前	1	堀 勝重 議員		○
	午後	2	山本 知克 議員		○
		3	白井 丈雄 議員	○	
		4	大原 伊一 議員		○
		5	渡邊 雄三 議員		○
13日(水)	午前	6	埴 豊 議員		○
		7	樋浦 恵美 議員		○
	午後	8	土田 昇 議員		○
		9	渡邊 広宣 議員		○
		10	齋藤 信行 議員	○	
14日(木)	午前	11	山崎 雅男 議員		○
		12	タナカ・キン 議員		○
	午後	13	柳川 隆 議員		○
		14	小林 由明 議員		○
		15	藤井 秀人 議員		○
15日(金)	午前	16	宮路 敏裕 議員		○
		17	大岩 勉 議員		○
	午後	18	吉田 勝利 議員		○
		19	長井由喜雄 議員		○
		20	山崎 光男 議員		○

平成29年第4回燕市議会定例会「一般質問表」

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
1	堀 勝重 (一問一答方式)	1. 産業の振興について	(1)小規模企業の振興について	<p>国では、全国 385 万の中小企業、中でもその 9 割を占める小規模事業所は、地域の経済や雇用を支える、極めて重要な存在であり、経済の好循環を全国津々浦々まで届けていくためには、その活力を最大限に発揮させることが必要不可欠であるとし、小規模企業に焦点を当て、「小規模企業振興基本法」が、平成 26 年 6 月 20 日の第 186 回通常国会において既に成立しております。この法律において、「各主体の責務」として、国、地方公共団体、支援機関等関係相互の連携及び協力の責務等が規定されております。そこで</p> <p>①このことに対しての、新潟県及び県内自治体における、条例の制定等の現状について伺います。</p> <p>②また、この法律の「基本原則」に、小規模企業の活力発揮の必要性が増加していることから、事業の継続的な発展を図ることなどが、位置付けられております。こういったことを地方公共団体の責務と受け止め、当市においても、条例化していくべきではないかと思いますが、市の所見を伺います。</p>
		2. 子育て支援について	(1)食物アレルギー対応について	<p>現在、当市における「食物アレルギー」への対応については、市教育委員会が策定した「食物アレルギー対応マニュアル」により、市内の小中学校、保育園等に対し取り組んでおられますが、厚生労働省の「放課後児童クラブ運営指針」では、放課後の時間帯に、栄養面や活力面から必要とされるおやつを適切に提供する。また、食物アレルギーのある子どもについては、配慮すべきことや緊急時の対応等について、事前に保護者と丁寧に連絡を取り合い、安全に配慮して提供するとあります。そこで</p> <p>①現在、食物アレルギー対応マニュアルの中に、市が運営している児童館や児童クラブは、盛り込まれていないが、このことについて教育委員会の所見を伺います。</p> <p>②平成 29 年 10 月 30 日付けで通知された、「燕市立児童クラブにおけるおやつの食物アレルギー対応について」の通知文に、おやつの提供の見直しが記載されておりますが、どのような考えのもとに行われたのか、具体的な内容について伺います。</p> <p>③平成 29 年度「燕市食物アレルギー対応委員会」が 7 月に開催されておりますが、その構成委員について伺います。</p> <p>④食物アレルギーを持つ園児・児童・生徒等の保護者との情報交換会の開催状況について伺います。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
2	山本知克 (一問一答方式)	1. 人権について	(1) 啓発活動と現状について	<p>人権に関する差別禁止法の課題について、昨年「ヘイトスピーチ、その他 LGBT (いずれの性別を恋愛や性愛の対象とするかといった概念) 対策、部落差別解消法、障害者差別解消法」など人権に関する法律が施行された。そんな中で相模原市の障害者施設でおどましい事件が起きている。</p> <p>① 高齢者・障害者・ヘイトスピーチ・部落差別・いじめ(ネット上を含む) や虐待など人権を守る上で、学校や市民への啓発活動で課題になっていることを伺う。</p> <p>② 今年度、人権問題に関係のある住民アンケートを実施するが、その後の人権推進計画策定に向けたスケジュール及び周知活動について伺う。</p> <p>③ 「住民票の写し等の第三者交付に係る本人通知制度」の導入が予定されているが、スケジュール及び周知活動について伺う。</p> <p>④ 県内でも、公務員による住民票不正請求事件が確認されている。人権問題やそれに関わる職員の研修について伺う。</p>
		2. 燕市の公共交通について	(1) おでかけきらん号について	<p>① 市民からの要望について伺う。</p> <p>② 高齢化が進み、運転免許返納制度の呼びかけも聞かれる中で、その利便性から安価で利用客数も伸びている。平日の午前中や降雪期に増便してはどうか伺う。</p> <p>③ 市民の声を反映した公共交通基本計画と、今後のあり方について伺う。</p>
		3. 観光について	(1) 産業史料館展示について	<p>① 市民からの意見として、展示物のリニューアルについての要望を聞くことがある。広報に掲載されていた医療器具の展示、「輪島とコラボ」した漆塗りの金属酒器、包丁やキャンプ用品などの現在に続く商品も、他の展示物と同様に「コーナー」を設けて展示してはどうか伺う。</p> <p>② 毎年行われているアイデアコンペ等や、新商品開発に補助金を得て商品化した物を一定期間展示することで、意欲ある産業界と燕市の取り組みを市民や来場者に紹介してはどうか伺う。</p> <p>③ 11月に中央公民館で催された、つばめ目耕塾を受講した。今回は、地形で見る産業の生い立ちとして、「観光協会学芸員」から史料館でもほとんど取り上げられていない(蒲原平野の誕生を含む、歴史的史料を参考に)江戸時代からの旧燕町の姿が紹介された。</p> <p>中でも、金属製加工品の今日までの歩みや鋳起銅器の関わりなどが、当時の地図と一緒に紹介されとても参考になった。詳細なデータもあり、産業の生い立ちや歴史を後世に残すためにも史料として作成し、蔵書として紹介してはどうか伺う。</p>
			(2) 観光ボランティアについて	<p>① 国上山での観光ボランティアの活躍は、観光客から喜ばれ好評を得ている。小学生「ボランティアガイド体験」の新聞報道もあり、今後の活動に期待したい。</p> <p>小学生「観光ボランティア体験」活動はどうだったのか、次年度以降の予定について伺う。</p> <p>② 産業史料館でも、入館者から喜ばれる観光ボランティアガイドの配置も検討し燕市の歴史や商品について広く紹介してはどうか伺う。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
3	白井 文雄 (一括質問一括答弁方式)	1. 総務行政について	(1) 女性職員の登用について	①本市における女性職員の登用の現状について。 ②女性職員の育休、介護休、年休取得の取り組みはどうか。 ③何が女性職員の登用を妨げているのか。 ④人(個)を活かす職場とは。 ⑤市としての登用対策はどう考えているのか。
		2. 市民生活行政(下水・生活環境)について	(1) 汚水処理施設整備構想について	①下水処理施設整備構想における地元説明会の実施状況について(開催数、出席者数、質問内容、反響について)。(下水道) ②下水道設置要望に対する地元民との考え方のかい離はどう対応して行く予定か。(下水道) ③事業認可区域外の環境対策はどう進めるのか。(生活環境) ④下水道整備のこれから進むべき方向性と今後の課題は。(下水道)
			(2) 長岡中之島ごみ処理施設の整備計画における本市への影響について	①周辺地区に地元説明会が開催されたが理解は深められたか。 ②市としての大気質や汚水排水についての影響やチェック体制はどうするのか。心配する必要はないのか。(今後も含めて) ③統合浄水場への影響はどうか。
4	大原 伊一 (一問一答方式)	1. 公共施設等総合管理計画について	(1) 進捗状況について	①合併特例も終わりを告げ、益々厳しさを増す財政状況の中、平成28年度決算において8億円余りの赤字となり、財政非常事態宣言の発令かとも思える想定外の数字が出たのを踏まえた厳しい内容となるのか。また、回避する術があるのか。どのような計画が提案されるのかと思いをめぐらしているが、今議会中に中間発表は有るのか、最終案は3月議会と思われるが進捗状況を伺う。 ②公共施設等総合管理計画に伴い、公共施設の利用料金の見直しもセットで発表されるのか伺う。
		2. 衆院選中及び選挙後の選挙管理委員会の対応について	(1) 無所属議員のポスター掲示の状況について	①無所属議員として立候補された議員の政党掲示板利用は、許されるのか。 ②いまだに撤去されていないが、選挙管理委員会は機能しているのか。
			(2) 期日前投票所の運営について	①選挙のある度に、多くの同僚議員が指摘してきた各地区に期日前投票所を設けるべきであるという意見を「検討する」と言い続けてきたが、今回選挙で台風の影響もあり、大混乱したと多くの市民から伺っている。なぜ設けられなかったのか、その経緯と責任の所在はどこにあったのか伺う。 ②期日前投票所が混乱したことについて、何ら市民にお詫びすら発表されていない。多くの方々が投票を諦めて帰宅された事実を選挙管理委員会としてどのように捉え検証されたのか伺う。 ③議会からの危険性の指摘を軽く受け止めていたと言わざるを得ない事態について、選挙管理委員長の見解を伺いたい。

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
4	大原 伊一 (一問一答方式)	3. 今年の農作物の作柄と長雨の影響 今後の水稲政策について	(1) 今年の不順な天候により全国的に農産物全般の作柄が芳しくないが、本市の農作物の作柄について	① 市内農家の長雨による農産物の作柄について伺う。 ② 今年の稲作については、10 ㎡当たりの収量が 10%～20%減収と多くの農家から伺っている。農家によっては離農に向けた流れが加速するとも言われている。また、大きな生産組織ほど打撃を受けたと思われるが、担当部局はどのように捉えているのか。 ③ 来年度以降の稲作について、暴落説があったり足りなくなるといった憶測もあったり、農家経営が非常に不安定になりつつある。この状態に拍車をかける今年の不作で、農業という産業の存続が危うくなる状態と思うが、来年以降の稲作に対する政策の状況を伺う。 ④ 合併後の農家数の経緯についても、年度ごとに離農された数と若者の新規就農者数について伺うとともに、本市農業を維持していく方策について伺う。
5	渡邊 雄三 (一問一答方式)	1. 所有者不明の土地・建物について	(1) 所有者不明の土地・建物の現状と課題について	① 本市における所有者不明の土地・建物についてどのように考えているのか伺う。 ② 固定資産税の徴収が困難な事案に対してどのような措置を講じているのか伺う。 ③ 固定資産税の影響について近年の、土地・建物の物件数と納税者数及び課税額の推移を伺う。 ④ 所有者不明の土地・建物で近隣住民からの苦情等で改善した内容と件数とかかった経費を伺う。 ⑤ 今後の課題と方向性について伺う。
		2. 自主財源確保について	(1) 広告事業の推進について	① 広告事業は自主財源確保・企業の育成ということだけに留まらず、いろんな発想・観点からこのテーマについては検討、研究をしていきたいとしていたが、先の答弁から1年以上経過したが、どのような検討、研究がなされたのか伺う。 ② 今後の取り組みと方向性について伺う。
		3. 高齢者福祉について	(1) 地域包括ケアシステムについて	① 地域包括ケアシステムを支える人材と役割について伺う。 ② 地域包括支援センターの役割について伺う。 ③ 高齢者の増加傾向の中、人材育成支援をどのように考えているのか伺う。 ④ 今後の課題と取り組みについて伺う。
6	塙 豊 (一問一答方式)	1. 今後の行政運営について	(1) 財政面について	① 地方交付税の減少と算定替えの平成 30 年度、及びそれ以降の見通しと影響について
			(2) 行財政改革について	① 平成 28 年度決算で単年度収支での赤字で、顕在化した国の交付税や各種補助金の減少で、よりスピードアップした改革の方向性について ② 公共施設の維持管理について ③ 幼保施設の民営化推進について
			(3) 人事面について	① 今までの買い手市場から売り手市場への変化に伴う人材確保について ② 管理職の大量退職と、管理職人材育成について ③ 働き方改革を通して、任期付職員、臨時職員の採用法、登用について

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
6	塙 豊 (一問一答方式)	2. 教育問題について	(1) 教育立市宣言をしている燕市の公教育の有り方について	① 現在までの中学3年卒業式後から高校入学式までの有り方でよいのか。 ② 現在、私立中学では土曜日の午前中、授業は当然のごとく行われており、当市では2020年度からの新学習指導要領が目指す教育の質の向上に、土曜授業の導入を含めてどのように対処するのか。
7	樋浦 恵美 (一問一答方式)	1. 高齢者福祉について	(1) 難聴者への支援について	① 加齢による聴力機能の低下により、難聴者の比率は着実に高まっている。難聴が原因で会話が成立しないことで自閉的になり、認知症やうつ病の原因になるといわれている。 他の自治体では、友人や家族等とコミュニケーションがとりにくい高齢者に対し、補聴器の購入に要する費用の一部を助成している。障がい者手帳の交付対象にならない聴力レベルの方への支援に力を入れるべきであると考えるが、補聴器購入費用の助成について何う。
		2. 認知症対策について	(1) 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりについて	① 燕市で認知症サポーター養成講座を受講したこれまでの人数と、今後の推進について何う。 ② 行方不明者の早期発見へメール配信サービス「おかえりつばめ〜ル」を4月1日から開始しているが、現状と課題について何う。 ③ 65歳未満の現役世代が発症する「若年性認知症」の患者は、国内に約4万人いると推計される。「若年性認知症」の患者や家族への支援について、考えを何う。
		3. 子育て支援について	(1) 一時保育の拡充について	① 市内5園で実施している一時保育について、平成29年度現在の各園での利用状況を何う。 ② 平成29年3月定例議会において、一時保育の拡充について質問し、当局からは「吉田地区においては一時保育の利用者が多く、受け入れを増やしてほしいとの要望があることから、これまで利用状況などについて調査し、対応について研究している。今後さらに調査を続けるとともに、一時保育の拡充を視野に入れて検討していきたい」との答弁があった。その後、どのような検討がされたのか何う。
8	土田 昇 (一問一答方式)	1. 県立吉田病院の早期改築について	(1) 整備基本計画の内容は	① 私は9月の定例議会で県立吉田病院の改築に関する「要望書」については全面的に賛成するが、用地については市の責任も重大であると発言いたしました。 市長の答弁は、移転改築を早期に決定して速やかな改築を行うよう県に働きかけると答弁しているが、それ以後の対応について市長の見解について何う。 ② 新潟県の病院局は、10月19日に県立吉田病院の整備基本計画の策定作業に入ったと報道されましたが、その内容は地元燕市や弥彦村から要望のあった、燕市役所周辺の移転改築について、県と地元自治体の話し合いにより行政が判断する課題として、同検討委員会では議論を行わないとし、さらに病院局としても地元要望のあった移転改築の問題については報告はしたものの、行政が判断する課題のため同委員会のテーマとしないと報道されました。その点について、今後どのように対応していくのか、市長の見解について何う。 (次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
8	土田 昇 (一問一答方式)	2. 子どもの貧困対策について	(1)子どもの貧困対策の有効な支援は	<p>① 昨年(2019)の12月、今年(2020)の3月議会、そして先の9月議会と再三この問題を取り上げてまいりました。この12月議会で1年が経過いたしますが具体的な内容について伺ってまいります。</p> <p>先の9月議会の答弁では8月に生活実態に関するアンケートを実施いたしました発送数は、児童扶養手当受給世帯は587通、就学援助受給世帯271通合計で858通となりましたと答弁しています。そして9月8日現在児童扶養手当受給世帯は487通、回収率83%、就学援助受給世帯は137通、回収率50.6%、全体では624通を提出していただきました。回収率72.7%となっており、一般的なアンケートより高い回収率となっていると受け止めていますとしているが、問題はここからですが、内容については現在集計中であり、回答を集約後、調査結果を分析し、子どもの貧困対策に有効な支援について検討してまいりますとしているが1年間も経過しながら、今後どのような対策をしていくのか具体的に詳細に伺う。</p> <p>② 新潟県子どもの貧困対策推進検討委員会は11月13日に会議が開かれて、子ども7人に1人が貧困世帯で、その約半数はひとり親世帯で占めている、県内の母子世帯約1万世帯、父子世帯1,100世帯であり、ほぼ横ばい傾向にあるとしているが、県では生まれ育った環境を超えた貧困の連鎖がないように、子ども、保護者の支援関係機関と連携した対策の推進に取り組んでいるとしています。</p> <p>具体的には母子保険、私学の援助子育て支援、生活困窮者の自立支援、ひとり親対策、奨学金制度、子どもの居場所づくりなどについて意見交換したと報道されているが、燕市としても早急に検討して、子どもの貧困に対する援助について行政として責任の持てる対策について伺う。</p>
		3. 農業問題について	(1)今後の農政対策等々について	<p>① 来年度から減反に協力してきた農家に支払われてきた戸別所得補償がなくなり国による生産目標の策定、配分がなくなり、そのような状況で農家の間ではコシヒカリの作り過ぎによる値崩れを心配して結果的には県としてコメ生産目標の参考値を示してきたが、燕市の参考値は19,271トと公表されたが、参考値については強制力はあるのか伺う。</p> <p>② 業務用米・非主食米へのシフトは米価全体を押し下げる方向になるのではないかと農家の間では危惧する声があるがどのように考えているか伺う。</p> <p>③ 収入保険制度の内容について国はまもなく詳細を公表するとしているが、その内容について、農家の方々に早く知らせる必要があると思うし、制度内容の充実を求めていくべきと思うが、その対応について伺う。</p> <p>④ 大規模農家だけの施策だけでは、地域の農業・農地の持続は困難、中小の農家も含め地域全体で生き残っていくための施策が求められてくると思うがその点の認識について伺う。</p> <p>⑤ 来年度から生産者がコシヒカリを過剰に生産して出荷した場合超過の仮渡し金を減額するような報道がなされているが、その点についてどのように感じているか伺う。(8月7日の資料に従って伺います。)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
9	渡邊 広宣 (一問一答方式)	1. 市長の政治姿勢について	(1) 市長の政治姿勢について	①首長の多選について基本的な考えを伺う。 ②9月定例会で3選出馬表明され、身の丈を超えた行政サービスの見直しや、公共施設使用料金の見直しの課題と市民に負担増と捉えられる考えを示したが、その前に行財政改革の強いメッセージを発することが重要と思うが所見を伺う。 ③次期市長選における重要施策・課題を伺う。 ④耳ざわりのいいような公約を並べ立てて立候補してくださいと答弁された真意と、一方において、将来、希望が持てる明るい指針を示すことが重要と考えるが所見を伺う。
		2. 労働実態について	(1) 企業全般の労働実態について	①市内企業の業績、設備投資状況について ②市内企業の新卒者採用状況・見直しについて ③従業員の充足率について伺う。
			(2) 女性の労働実態について	①女性労働者の労働実態について ②子育て世代の女性の労働・雇用状況について ③0～2歳児の若い母親世代の就職状況と、保育所等の受け皿状況について伺う。
10	齋藤 信行 (一括質問一括答弁方式)	1. 市政について(市長の政治姿勢について)	(1) 来年度の予算について	①市長は3期目の出馬を9月の定例議会で表明しましたが、目玉になる事業など考えているのか伺います。 ②今後、燕市をどのような方向へ導いて行くのかも伺います。 ③今後の燕市には市長としてどのような課題があるのかも伺います。
			(2) 市長の市に対する思いについて	①市長は3期目以降燕市の将来をどう描くのか、夢なども含めた中で伺いたい。
		2. 児童生徒の教育をとりまく課題について	(1) 新学習指導要領について	①新学習指導要領により、新しく教科としての道徳教育が来年度から始まるが、市教育委員会の取り組みについて伺います。 ②教科として、評価はどのように行うのか伺います。 ③英語の学習指導要領について伺います。
			(2) 教職員の多忙化解消について	①燕市の教職員の勤務実態について伺います。 ②多忙化への対応について伺います。 ③部活動の課題とその対応について伺います。
			(3) 特別支援教育の充実について	①市内の特別支援教育の実情について伺います。 ②実態を踏まえた今後の対策について伺います。 ③特別支援教育充実のための人員の拡充について伺います。
		3. スワロー号について	(1) 休日運行について	①休日運行のアンケート結果について伺います。 ②今後休日運行についてはどのように考えているのか伺います。
			(2) デマンド交通について	①デマンド交通の予約状況について伺います。 ②午前と午後の利用について伺います。

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
11	山崎 雅男 (一問一答方式)	1. 下水道利用者と浄化槽利用者の公平性の観点について	(1) 環境保全や快適な市民生活を確保するためについて	<p>①平成28年(2016年)都道府県別の汚水処理人口普及状況によると新潟県は全国22位で汚水処理人口普及率は86.6%である。県内市町村別の汚水処理人口普及率は30市町村内で燕市は28位で59.4%である。</p> <p>汚水処理施設が整備されないと、家庭等からでる汚水や生活雑排水が川などに流れて環境や衛生状態悪化に繋がるが、市としての現状認識と今後の整備構想計画について伺う。</p> <p>②燕地区本町排水区管路施設の老朽化に伴い、改築更新(長寿命化)事業整備に取り組まれたが、市内管渠耐用年数である50年を経過、或いは経年劣化による更新が急務な箇所はどのくらい存在するのか。また、対応策はどのようになっているのか伺う。</p> <p>③下水道、合併浄化槽の普及率の向上や、下水道への早期接続を促進しているものと思われるが、下水道接続率向上のための取り組みと成果について伺う。</p> <p>④下水道未整備地区に対する計画、対策は市としてどのように捉えているのか伺う。</p>
		2. 平成30年から減反廃止により岐路に立っている稲作農家について	(1) 国によるコメの生産数量目標配分廃止に向けて	<p>①平成30年から減反政策が廃止され、更に10㌦当たり7,500円の米直接払い交付金も廃止。</p> <p>国の政策転換により、担い手不足や農業従事者の高齢者が一段と増加傾向や離農していく農家の増加に、より拍車がかかることが予想されるが、市としての現状認識と課題、そして、稲作農家の取り組むべき方向性についての見解を伺う。</p> <p>②コメの消費は人口減少等で消費が減退し、需要に応じた米生産が必要であり戦略作物が求められている。</p> <p>今日、稲作農家は転作を大豆、加工用米、備蓄米、飼料用米等を作付けて取り組んでいる。平成30年産から国による配分がなくなるが、今後の転作に対して市はどのように推進していく考えなのか伺う。</p> <p>③平成30年から生産調整廃止である国によるコメの生産数量目標配分廃止後、燕市の主食用米生産の見通しと地域とも補償事業の継続性取り組みについて伺う。</p>
			(2) 減反政策廃止による離農で人間関係の希薄化が懸念される農村地域社会について	<p>①日本の農業は、自然や国土の制約を大きく受けての小規模生産農家が大半の家族的農業。農地集積・集約化しての作業効率を高めることを推進しつつも、食料安定供給や国土環境保全の点から見ても、ただ一辺倒に進めて構わないものではないかと思う。</p> <p>家族的農業が持つ自然・文化・社会的な果たす役割は極めて大きいと思う。市場原理のみで進めることでなく、地域社会を維持する上でも重要かと思われる。産業のまちである中で兼業農家の多い燕市。離農が進んだ場合での農村地域の自治会、集落に対しての市としての捉え方と今後のあるべき方向性について伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
11	山崎 雅男 (一問一答方式)	3. 学校での安全管理について	(1) 学校での不審者から児童・生徒・職員を守る安全管理について	<p>① 燕市内小中学校での不審者等の安全管理に対する学校内の責任・執行体制の確立はどのように取り組まれているのか伺う。また、学校現場での不審者と思われる事案等は教育委員会に報告がされているのか伺う。</p> <p>② 学校安全管理に対する教職員の共通理解や、資質・能力の向上等にも資するためにも、学校独自の安全管理のためのマニュアルは作成されているのか伺う。</p> <p>③ 各小学校での教職員の超過勤務時間の実態と下校時間を把握されているのか。また、安全管理についてどのように捉えているのか伺う。</p>
12	タナカ・キン (一問一答方式)	1. 道の駅「国上」について	(1) 稼げる道の駅にするために	<p>① 平成 29 年度版「道の駅」旅案内全国地図によれば、「道の駅」は全国で 1,107 箇所もあり、飽和状態といってもいい。それゆえに、それぞれが特色を出そうと必死である。中でも、飲食はその地域ならではのものを提供している所が多い。道の駅「国上」の食堂の工夫について伺う。</p> <p>② 平成 29 年度の指定管理料は、売店と食堂の売り上げを平成 27 年度との比較で、60%増と見込み算定している。売店(物販)と食堂の売り上げの推移について伺う。平成 27 年度、28 年度と平成 29 年度の 4 月から 11 月までの売り上げの累計対比は、それぞれ何%か。</p>
			(2) 指定管理者との協定について	<p>① 9 月定例会で、売り上げが見込額である 160%を達成できず、赤字が生じた場合についての質問を行った。産業振興部長の答弁は、指定管理者との協定書には折り込んでいないが、協議するとのことであった。仮にそうなった場合について伺う。</p> <p>② 黒字の場合はどうなるのか、従業員等に還元されるのか。</p> <p>③ 7 月の豪雨で土砂災害の危険性があるため、「手まりの湯」は 3 日間の休業を余儀なくされた。この場合の指定管理料の見直しについて伺う。</p>
		2. 随意契約について	(1) 随意契約について	<p>① 道の駅「国上」整理事業での備品購入費は、平成 28 年度の決算で 720 万 2,951 円(税込み)、そのうちの 664 万 7,000 円(税抜き)は、</p> <p>1. 事務所 199 万 3,660 円(税抜き)</p> <p>2. 売店 266 万 6,700 円(税抜き)</p> <p>3. 食堂 238 万 6,640 円(税抜き)で、一括で随意契約で決定している。市の財務規則では備品購入費の随意契約の上限は 80 万円と定められている。競争入札でなく随意契約にした理由について伺う。</p> <p>② 監査を行う際、監査委員に対して 80 万円以上の備品購入を随意契約で行った理由について、十分な説明はしているのか伺う。</p> <p>③ 合併後、これまでに備品購入費で 80 万円以上は何件で、うち随意契約で決定した件数を年度別に伺う。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
13	柳川 隆 (一問一答方式)	1. 産業振興行政について	(1)ネクストリーダーズ事業のこと	①予算概要の中で、対象者は「市内事業所における若手経営者並びに次期経営者等」とあるが、その人数はどれくらいと把握しているのか伺う。 ②今年度、今までに実施したビジネスセミナーの参加者の人数を伺う。 ③今年度の事業はビジネスセミナーを4回行うのみであるが、次世代経営人材を育成というからには多様な事業と、その継続性が大事かと思うが、来年度からの取り組みを伺う。
		2. 健康福祉行政について	(1)ひとり親家庭子育て支援事業のこと	①アンケート調査結果概要を見ると、「ひとり親家庭の生活実態」の回収した調査票の中で「無効」が約1割を占めているが、これは何なのか伺う。 ②アンケート調査結果で、「ひとり親家庭の生活実態」と「就学援助受給世帯の生活実態」の回収率が就学援助の方がひとり親家庭よりも配布数は半分以下なのに32%も低いのは何故か伺う。 ③調査の結果は、十分予測できた結果だと思える。支援ニーズは把握できた訳なので、その具体的な対策を伺う。
			(2)認知症高齢者等見守り事業のこと	①この見守り体制を活用した事案は、今年度何件あったのか伺う。 ②対象者の事前登録者数を伺う。 ③協力加盟者(おかえりサポーター)の人数を伺う。 ④この体制を推進するにあたっての課題、問題点等を伺う。
		3. 教育委員会行政について	(1)文化財公開活用事業(ブラつばめ)のこと	①今回の映像プログラムのテーマは何か伺う。 ②事業費の内訳を見ると製作費(人件費)が計上されていないが、誰が製作するのか伺う。 ③NHK番組「ブラタモリ」をイメージし、と予算概要に記載があり、「案内人」により、とも書いてある。この「案内人」は誰がするのか伺う。 ④上映時間はどれくらいになるのか伺う。
14	小林 由明 (一問一答方式)	1. 生きにくさを抱える方の支援について	(1)発達障害について	①平成26年9月議会において、発達障害への社会的理解が進むよう、その啓発を提言したが、その後の取り組み状況はどうか。 ②今後の具体的な構想を伺いたい。 ③教育現場における介助員の質や人数について、かねてよりその改善を求める声が保護者をはじめとする関係者から上がっている。市財政への配慮も必要ではあるが、教育現場の実態を踏まえた十分な対応がなされるべきと思うが、市の考えを伺いたい。
			(2)障がい者就労について	①平成28年6月一般質問において、障がい者の就労支援に関して、福祉事業所等と民間事業者との結び付けの機会を積極的に作っていくよう提言したが、その後の取り組み状況はどうか。 ②今後の具体的な構想を伺いたい。

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
14	小林由明 (一問一答方式)	1. 生きにくさを抱える方の支援について	(3)障がい者の日常生活支援について	①燕市では現在、燕市障害者(児)日常生活用具給付事業実施要綱にもとづき、聴覚障害者用通信装置の給付を行っている。「一般の電話に接続することができ、音声の代わりに文字等により通信が可能な機器で、障害者等が容易に使用できるもの」という性能部分の見直しを行い、スマートフォン等も給付対象とすべきでないか。
		2. 行政とAIについて	(1)行政における人工知能(AI)の可能性について	①民間事業者をはじめ、行政でも全国的にAIの導入や実証実験が始まっている。市の業務における人工知能の導入について、どのような考えでいるのか伺いたい。
15	藤井秀人 (一問一答方式)	1. 福祉について	(1)高齢者対策について	①直近の高齢者世帯の比率と、高齢者の単身世帯、高齢夫婦世帯の割合は、地域別も含め把握されている数字をお聞きしたい。 ②高齢者世帯の増加に伴い、総合計画にも計画が反映されていると考えられるが、施策としての取り組み成果は出始めているのか見解をお聞きしたい。
			(2)地域包括システムに向けて進捗はどのような認識をされているかについて	①2025年地域包括ケアシステム構築のため、包括支援センターが主体となり各地域でケア会議が開かれているが、ケア推進会議において問題提起等に対し、対応されている事柄はあるのか、会議の内容も含めどのような認識を持たれているのか伺いたい。 ②地域支え合い体制づくりは広まりは出始めているのか、また、どのような依頼が多いのかお聞きしたい。
		2. 都市計画について	(1)高齢者に対してのまちづくりの考え方について	①高齢化率の高い団地の存在はどれくらいあり、認識されているのか伺いたい。 ②高齢化社会に向けてのまちづくりの具体的施策は考えられているのか伺いたい。
			(2)まちの駅の取り組みについて	①市内にまちの駅はどの地域にどれ位の数があるのか、また活動内容はどのようなものか、お聞きしたい。 ②今後、県内他市でも行っているまちの駅の取り組みは、当市では拡げていかれる考えはあるのか伺いたい。
16	宮路敏裕 (一問一答方式)	1. 原子力災害と防災について	(1)柏崎刈羽原発再稼働問題の基本的認識について	原子力規制委員会は10月4日の定例会で、柏崎刈羽原発6・7号機が新規規制基準に適合しているとする審査書案を了承した。新聞報道では事実上「合格」と報じている。原発30km圏の本市では、市民が今後の動向を不安視しながら安心・安全の施策を願い、市当局の姿勢・対応に注目していると考えられるが以下、伺う。 ①新潟日報社が10月15～17日に実施した世論調査で、柏崎刈羽原発の再稼働について否定的解答が58.6%を占めたが、本市の市民の意識動向も同じと言えると思うが、市当局の認識を伺う。 ②米山知事は柏崎刈羽原発に関する「三つの検証」がなされない限り再稼働の議論は出来ないと、重ねて明言しているが、県の検証作業に本市としても協力を惜しまず、しっかり尊重していくべきと考えるが、市長の認識を伺う。 <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
16	宮路敏裕 (一問一答方式)	1. 原子力災害と防災について	(2)本市として原子力災害に備える安心・安全確保の施策について	①原子力災害に備えた「燕市避難計画」をより実効性のあるものとするために、住民参加による避難訓練を実施することが、複合災害対策や広域的避難受け入れを含むさまざまな課題を割り出し、対策を見い出すことになると思うが認識を伺う。
		2. 介護保険事業について	(1)医療が必要な人の特養ホーム利用について	①高齢者の人口増に伴い、医療と介護の連携強化が益々求められるが、人工透析及び酸素吸入の治療を受けている患者数と、その中で、特養ホームの入所を希望されているケースはあるのか伺う。 ②次期介護保険事業計画の中で、医療が必要な方の施設受け入れの課題対応を検討しているのか伺う。
			(2)介護職員不足問題の対応について	①介護職員の人材不足を改善させていくことは、事業運営関係者や利用者にとって切実な願いであると同時に、若い人が地元で働く職場を提供されることであり、人口減少対策としても有効な施策である。 介護人材確保に資する「地域医療介護総合確保基金」事業を新潟県は運営しているが、これは市あるいは現場からの提案で実施する事業である。この間の対応実績や検討などがあったのか伺う。
17	大岩勉 (一問一答方式)	1. 市長の政治姿勢について	(1)米山県知事と県市長会、町村会との定期協議について	①県が補助して市町村が実施している子供医療費助成を、県知事は2018年度に拡充する方針を定期協議で示したが、燕市としてはどのような対応をされるのか伺う。 ②県市長会は東京電力柏崎刈羽原発を視察したが、県内30市町村でつくる「原子力安全対策に関する研究会」に参加している燕市として視察参加されたのか伺う。
			(2)県立吉田病院の建て替えと医療体制の充実について	①県立津川病院の建て替えと医療体制の充実要望を阿賀町長と阿賀町議会は要望し、米山県知事も検討する考えと報道されているが、県立吉田病院新設構想が取り残されないように、今以上に新潟県に対し行動し取り組む必要があるべきと思うが考えを伺う。
			(3)県立アリーナ建設を求める動きが本格化しているが燕市としての対応について	①県立アリーナ建設促進協議会は6月県議会に約17万人の署名を集め、スポーツ振興を目的として建設を求める陳情を提出し、採択されたことは確認されているのか伺う。 ②新潟県事業の県立武道館誘致の失敗、基幹病院の燕市側への誘致整備も悉く失敗されてきたが、県立アリーナ建設に対して県央地域のリーダーとして手を挙げ取り組まれる考えはないか伺う。 ③燕労災病院の今後、跡地利用活用整備計画の一つとして県に提案してみるのも良いのではないかと思われるが市長の考えを伺う。
			(4)市職員の超過勤務状況について	①勤務時間の残業が必要以上に多くはないのか、庁舎の電気の消灯時間の取り決めはないのか伺う。 (次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
17	大岩勉 (一問一答方式)	2. 燕市の学校教育について	(1) 市内中学校運動部の区域外就学は認めていないか	①市内中学校の剣道部に区域外就学者が以前見られたとの指摘があるが、現在そのようなことはないのか伺う。 ②糸魚川市の中学校運動クラブで昨年、暴力を伴ういじめが繰り返された問題を教育委員会は把握されているか、クラブの生徒は全員が区域外の出身であり、今後糸魚川市教育委員会は区域外就学を認めるべきでないとしているが燕市としての見解を伺う。
			(2) パラスポーツ体験型授業について	①車椅子バスケットボール日本代表キャプテン根木慎志さんを講師に、市内小中学生の生徒に「あすチャレ! スクール」を実施されたが、生徒と教育委員会の感想を伺う。
		3. 衆議院選挙について	(1) 選挙管理委員会の姿勢について	①開票時における開票立会所の駐車場整理について、選挙管理委員長・委員そして開票立会人さらに傍聴者の駐車場確保するべきでないか見解を伺う。
			(2) 期日前投票について	①来年4月の市長選挙から、燕地区・分水地区にも期日前投票所が設置される予定とのことですが、今回の衆議院選挙での期日前投票率はどのような結果であったか伺う。
18	吉田勝利 (一問一答方式)	1. 医療機器市場への参入について	(1) 医療機器市場への参入に向けての市の支援について	①中小企業に向けたセミナーは何回行ったのか、またその効果は。 ②各種事業を行ったと言っておられるが、どのような事業でまたその効果は。 ③医療機器業界には特有習慣があるとのことですが、その特有習慣とはどんなものなのか。 ④特有習慣を理解したうえで市場拡大はその後どうなっているのか。 ⑤現在輸出の実績はあるのか。 ⑥今後の市の支援はどのように考えておられるのか。
		2. 市内小中学校の教職員数と非正規の常勤講師の件について	(1) 市内小中学校の教職員数と非正規の常勤講師数は何人か。また不登校と教職員・非正規教員(講師)との関係について	①市内小学校各校の教職員数は何人か。 ②市内小学校各校の非正規常勤講師数は何人か。 ③市内中学校各校の教職員数は何か。 ④市内中学校各校の非正規常勤講師数は何人か。 ⑤不登校の原因に教職員がかかわっているとの文科省の調査について。燕市でそのような事例はあったのかどうか。 ⑥非正規の常勤講師の任期はどうなっているのか。

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
19	長井 由喜雄 (一問一答方式)	1. まもなく始まる新潟県国民健康保険について	(1) 新潟県国民健康保険運営方針の認識と問題点について	<p>① 11月4日、第3回新潟県国民健康保険運営協議会が開かれ「新潟県国民健康保険運営方針」が了承された。保険者である燕市はこの方針をどう受け止めるか伺う。</p> <p>② 燕市は「保険税」とするのか、それとも「保険料」に変えるのか伺う。</p> <p>③ 「保険料水準の在り方については将来的な統一を視野に継続的に議論を行う」としているが、保険料水準が低いところが高い市町村に引きずられて値上げの懸念がある。医療費地域差指数が1.5倍となっている中で統一は可能と考えるか伺う。</p> <p>④ 「法定外一般会計繰入金のうち決算補填等を目的とするもの及び繰上充用金の増加額については、削減すべき赤字額と位置づけ、各市町村において計画的な解消を目指すものとする」としている。これまでの国会答弁や県議会答弁と矛盾するのではないか。</p> <p>⑤ 目安としての仮算定では一人あたりの標準保険料額で燕市は引き上げとなっているが、県の試算についてどのような認識か伺う。</p>
			(2) 国保の財政上の構造的問題について地方自治体としての認識と果たす役割について	<p>① 協会けんぽ並みの負担とするには1兆円の財源投入が必要とされている。これなくしては保険料引き上げを回避することは難しい。社会保障制度としての国保を守るために国に対して「財政上の構造的問題」と「高い保険料水準」の解決を求めることが重要ではないか。地方自治体としてどんな姿勢を示すか伺う。</p>
			(3) 生活困窮者減免規定と滞納処分の停止制度について	<p>① 現在の国保税条例には生活困窮を要因とする減免規定がないが、広域化に伴う条例改正時にこれを明記してはいかかがか。</p> <p>② 国税徴収法の要件により、執行停止の具体的基準として「納税者本人につき10万円、生計を一にする親族1人につき4.5万円」が示された。塩崎厚労大臣は市町村への周知を国会で述べているが、燕市には通知が来ているか伺う。また、燕市では対象となる人を国保税納入対象から外しているか。さらに短期・資格証の対象からも外しているか伺う。</p>
		2. 燕市の正規・非正規職員の現状について	(1) 市役所全体の正規職員の配置について	<p>① 燕市職員の定員適正計画では、現在の正規職員の配置は妥当な数字といえるのか。正規職員の減員によって支障が生じている部課があるのではないか。市民サービスを提供する市役所として、正規職員を増やす必要があるかと思うがいかがか。</p>
			(2) 非正規職員の雇用状況について	<p>① 非正規職員の職種には、嘱託職員、非常勤職員、臨時的任用職員や任期つき職員など8職種あり、資格の有無、勤務年数による時給の違いのほか、報酬、賃金、給与などさまざまとなっている。今後の雇用の見通しについて伺う。</p> <p>② 資格を要しないとする事務職や管理員、介助員などは臨時的任用職員として何年勤めたとしても時給820円のみだ。その部署では経験を積んでいくことでもあり、基本時給や年数による引き上げも必要であるかと思うがいかがか。また、非正規職員のうち嘱託職員を除く職員は交通費が正規職員と違う規定となっている。差別することなく正規職員と同じにすべきかと思うがいかがか。</p>

発言の順序	発言する員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
20	山崎 光男 (一問一答方式)	1. 外国人や外国語にまつわる燕市の現況と今後の発展性について	(1) 外国人の文化の紹介や、視点を生かした取り組みについて	<p>①今年10月末現在、燕市には20カ国、356世帯416人の外国人住民がおり、国籍数・人数ともに増加の傾向にある。2014年8月1日の広報つばめで、市内に住むスリランカ出身の女性が紹介され、他国や異文化を知るいい機会となった。今後、燕市在住のさまざまな外国出身住民の仕事や、本市での生活ぶりを定期的・不定期的に取り上げてはどうか。考えを伺う。</p> <p>②新潟県内では例を挙げれば、長岡市や三条市で、市民や外国人留学生・国際交流員が、母国等の文化や料理を紹介する講座を開き、好評を博している。本市でも「燕大学」などで、外国人住民と日本人が交流する、そのような国際理解講座を企画してはいかがか。考えを伺う。</p> <p>③燕市を含むそれぞれのまちには、外国人の視点から見た魅力がある反面、困っていることや不便なことなど、日本人では気づかない課題も多い。外国人に優しく住みやすいまちづくりのためにも、ふれあいトークのように、彼らの「生の声」に耳を傾け、話し合う場を設けてはどうか。当局の考えを伺う。</p>
			(2) 東京五輪を見据えた、外国語を活用した取り組みについて	<p>①近年急増している訪日外国人旅行者は、来日前に観光地のホームページやフェイスブックページ他をチェックして情報収集し、ピンポイントでやって来ることが多くなっている。また、旅行者のニーズは多様化し、「モノ」消費から体験やサービスを重視する「コト」消費に変化している。</p> <p>全国の観光地等では、2020年東京五輪に向け、激増が予想されるインバウンド客へのアピールや受け入れのために、紙やネット媒体を次々と多言語化している。燕市では、2014年3月に、観光ガイド「磨き輝き集うまち燕」の英語版を出しているが、この他にも観光協会のHPや、観光ガイド「つばめぐり」、パンフレット「つばめぐり体験プログラム」を多言語化し、さらにPDF化できないか。当局の考えを伺う。</p> <p>②今年6月に発表された「燕市産業史料館リノベーション基本構想」には、本館展示リニューアル(案)の項目に、「什器の新設、説明、音声ガイドを拡充」と明記されている。音声ガイドの多言語化に対しての、市の方向性を伺う。</p> <p>③東京都では五輪開催決定後、「外国人おもてなし語学ボランティア育成講座」の受講者募集を開始、話題となったことから都民の関心は高く、ほとんどの回で定員を超え大盛況となっている。</p> <p>このような動きは新潟県以外にも各地に広がっているが、燕市でも東京五輪を見据え、外国人観光客を気持ちよくもてなすために、英語や中国語・モンゴル語などを話すボランティアガイドの育成を始めてはどうか。市の考えを伺う。</p>